



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

群馬県 高崎市立佐野中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

## 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす  
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



## 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた  
オリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- オリンピアン：鈴木彩香先生（ラグビーフットボール）  
【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】
- 期 日：2024年12月10日（火）
- ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



リオデジャネイロ2016大会のラグビーフットボール競技に出場したと自己紹介。オリンピックでは7人制が採用されている。運動の時間は明るく、楽しく、全力で取り組んでほしい。また、敵味方関係なくハイタッチをする、笛が鳴ったら先生の話も聞くことも約束してほしい。ストレッチ後、ラグビーボールでボール送りリレー、その後、2人で向き合い片手をつなぎ、もう片方の手で腰に付けたタグを取り合うゲームを行う。タグを取ったらタグと大きな声を出す。最後に班で円陣になりパス練習を実施。

○主運動等



主運動はタグラグビーを実施(各班2試合・2分ゲーム全6試合)。ボールは前に投げず自分の後ろにいる味方にパスをし、ボールを持ったら敵を交わしながらゴールラインを目指して走り得点する。ボールを持っている敵のタグを取ると一旦攻撃が止まり、タグを5回取ると攻守を交代する。ボールを落とさず上手くパスをつなげるとスピード感が出て試合展開が面白くなる。タックルをする代わりにタグを取るので相手に接触したり、パスを妨害してはいけない。



タグラグビーを初めて体験した人が多く最初は難しかったと思うが、試合を行いながらルールを理解し、一生懸命に頑張る様子が見られた。試合には勝ち負けがつきものだが、結果だけが重要ではなく、運動の時間を通してオリンピックバリューを体感してほしい。座学の時間は、運動の時間に皆がどのようなことを考えながら行動したかを振り返り、オリンピックバリューについて一緒に学ぶ時間にしたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：鈴木彩香先生(ラグビーフットボール)  
【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】
- **期 日**：2024年12月10日(火)
- **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。オリンピックで着用したユニフォームとシューズを披露。日々の練習にも命を懸けて頑張っていたと自負するほどだったが、大怪我をしてしまったことで遠征に参加できず悔しい思いをした。懸命にリハビリを重ねる中で、メンバー以外の気持ちや、支えてくれる人の思いを感じ、自分だけのためではなく、周りの人のためにも頑張ろうと思えるようになった。その経験があったからこそオリンピック出場の夢を叶えることができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：百人一首大会に向けて、オリンピックバリューをどう活かせるか考えてみよう。  
 発表：エクセレンス：「クラスで勝つ気持ちを高める」「諦めずにベストを尽くす」「一生懸命暗記する」「各自目標を持つ」等  
 フレンドシップ：「苦手なことを教え合う」「クラスで喜びを共有する」「ハイタッチする」「思いやりを持って練習する」等  
 リスペクト：「自分達の勝利を優先せずに対戦してくれたことに感謝」「仲間を褒める」「ルールを守る」「相手に挨拶」等



グループワークの発表を聞いて、当たり前のことではなく、全て大切なことだ。当たり前のことを実行に移せるかどうかが大事だ。夢や目標に向かう中で、途中で諦めてしまったり、頑張ることが難しいと感じる時もある。そんな時は仲間と声を掛け合い助け合ってハイタッチして乗り越えてほしい。今後皆が様々な目標に向かって頑張る時に、今日学んだオリンピックバリューを思い出して、行動してほしい。常に自分自身を超えて行ってほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：鈴木彩香先生（ラグビーフットボール）  
【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】
- **期 日**：2024年12月10日（火）
- **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



リオデジャネイロ2016大会のラグビーフットボール競技に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、運動の時間は明るく楽しく全力で取り組んでほしい。ストレッチ後、ラグビーボールでボール送りリレー、その後、2人で向き合い片手をつなぎ、もう片方の手で腰に付けたタグを取り合うゲームを行う。タグを取ったらタグと大きな声を出す。最後に班で円陣になりパス練習を実施。

○主運動等



主運動はタグラグビーを実施(各班2試合・2分ゲーム全6試合)。ボールは前に投げず自分の後ろにいる味方にパスをし、ボールを持ったら敵を交わしながらゴールラインを目指して走り得点する。ボールを持っている敵のタグを取ると一旦攻撃が止まり、タグを5回取ると攻守を交代する。ボールを落とさず上手くパスをつなげるとスピード感が出て試合展開が面白くなる。タックルをする代わりにタグを取るので相手に接触したり、パスを妨害してはいけない。



タグラグビーを初めて経験した人は、ルールが難しかったかもしれないが、難しいからこそ理解し習得する楽しさがある。明るく楽しく全力で取り組んでくれたことは素晴らしい。運動の時間を通して、チームワークの大切さやお互いを尊敬し合う気持ちを持ちながら全力で取り組んだことはオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自分の経験を通して感じたオリンピックバリューを話し、一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。



- **オリンピック**：鈴木彩香先生(ラグビーフットボール)  
【出場オリンピック/リオデジャネイロ2016大会】
- **期日**：2024年12月10日(火)
- **クラス**：2年2組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。日本代表チームでキャプテンを務めた際に、自分が日本を強くすると自分自身に勝手にプレッシャーをかけ、重圧を背負い込んでしまい上手く行かないこともあった。チームをまとめるためにどうすればよいかを先輩に相談すると、チームは家族だと教えてくれた。困ったことや悩みはチーム全員で考えればよい。他の選手の力を借りることも必要だと気付いた。また、自分を変えるのは自分しかいないことも学んだ。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：百人一首大会に向けて、オリンピックバリューをどう活かせるか考えてみよう。  
 発表：エクセレンス：「1枚でも多く覚える」「他人と比べず自分のベストを尽くす」「最後まで諦めない」「昨年の経験を活かす」等  
 フレンドシップ：「1人1人がクラスのために頑張る」「休み時間に仲間と練習する」等  
 リスペクト：「読み手に感謝する」「相手にしっかり挨拶する」「フェアプレー」「ルールを守る」等



オリンピックバリューはスポーツだけではなく、皆の日常生活の全てのことに活かすことができる。生きていく上でとても大切なことだと知ってほしかった。チームの仲間と声を掛け合い試合ができたことや、相手チームに敬意を持って戦ったこと等、当たり前前の行動がとても大事だ。これからもぜひ継続してほしい。皆が考えたことをクラスで実践しクラス一丸となり目標を達成してほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：中野 紘志 先生 (ポート※) 【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2024年12月11日(水)

※現：ローイング

■ **ク ラ ス**：2年3組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



リオデジャネイロ2016大会にポート競技で出場したと自己紹介。現在は競技名がローイング競技に変更した。運動の時間は体を動かしながらオリンピックやローイング競技を身近に感じてほしい。腿の裏側の硬さや肩の可動域を改善するストレッチを紹介。その後、ローイング競技のキャッチとローの漕ぎ方を実践。長座の姿勢で座り、上半身の動きに合わせて膝を曲げ伸ばしする。実際のレースは約2,000mの距離を約6分間漕ぎ続ける。金沢弁の掛け声にも挑戦する。

○主運動等



主運動は新聞紙でボール運びリレーを実施(全3回)。2人で広げた新聞紙の上にバレーボールを乗せ、折り返し地点を回って戻り、手を使わずに次のペアにボールを渡す。最後のペアがゴールした時間で着順を競う。途中作戦タイムを設け、タイムを縮める工夫を話し合う。作戦を尋ねると、ボールを優しく渡す、チームで鼓舞し合う、小回りに折り返し地点を回る等答える。



運動の時間を振り返り、1秒でも速くゴールしたいと思うことや、ルールを守りながら班のために一生懸命に取り組んだことは、全てがオリンピックバリューに当てはまる行動だ。皆はオリンピックと聞くと、自分とは違う世界のように感じるかもしれないが、体を動かしながら感じたことの延長戦上にオリンピックがある。座学の時間は、自分の経験を話し、オリンピックバリューについて皆と一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：中野 紘志 先生 (ポート※) 【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■ **期 日**：2024年12月11日(水)

※現：ローイング

■ **ク ラ ス**：2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像とスライドを見ながら自己紹介。開会式で着用した赤のジャケットを披露。質問に答える時はジャケットを着て発言してほしい。オリンピックに出場するまでには水泳、サッカー、テニス、陸上競技等、様々なスポーツを経験した。自分では常に努力してきたつもりだったが、いつも結果が付いてくるわけではない。自分の人生をオセロに例え、黒のオセロが続いてもいつか白のオセロがくる。それはいつか夢が叶うということだ。諦めずに努力し続けたことでオリンピックに出場することができた。

○個人ワーク～グループワーク等



次の発問についてグループで考えよう。

発問①：「どうせ無理と周囲から言われたら？」⇒「誰も未来を当てることはできない」

発問②：「様々なスポーツに挑戦したが上手く行かなかった、なぜだろう？」⇒「どのスポーツも苦手だった」

発問③：「ローイング競技に出会ったが最初は結果が出なかった、なぜだろう？」⇒「練習方法が悪かった」

発問④：「自分には〇〇無理。〇〇に入る言葉は？」⇒「まだ」

発問⑤：「ヨーロッパの選手達が負けた時によく使う言葉はどんな言葉？」⇒「今日は私の日ではなかった」



どんなトップアスリートも、自分の結果を全然駄目だったとは言わない。それは未来を見据えてポジティブな心を持っているからだ。スポーツに限らず勉強やテストが上手くいかずに悩んだとしても、前向きな気持ちを常に持ち乗り越えてほしい。努力は自分の成長につながり、いつかその努力が報われる時が来る。これからの人生、様々なことに挑戦し続け最後まで諦めずに自分や友達を信じて頑張してほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：中野 紘志 先生 (ポート※) 【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■期 日：2024年12月11日(水)

※現：ローイング

■ク ラ ス：2年4組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



リオデジャネイロ2016大会のポート競技に出場したと自己紹介。現在は競技名がローイング競技と変更。オリンピックバリューを説明し、運動の時間はオリンピックを身近に感じてほしい。腿の裏側の硬さや肩の可動域を改善するストレッチを紹介。その後、ローイング競技のキャッチとローの漕ぎ方を実践。長座の姿勢で座り、上半身の動きに合わせて膝を曲げ伸ばしする。実際のレースは約2,000mの距離を約6分間漕ぎ続ける。金沢弁の掛け声にも挑戦する。

○主運動等



主運動は新聞紙でボール運びリレーを実施(全3回)。2人で広げた新聞紙の上にバレーボールを乗せ、折り返し地点を回って戻り、手を使わずに次のペアにボールを渡す。最後のペアがゴールした時間で着順を競う。途中作戦タイムを設け、タイムを縮める工夫を話し合う。作戦を尋ねると、走ることが苦手な人を内側にしてスピードを合わせる、ボールを渡す時は慎重に慌てずに渡す、ボールを渡すための時間を効率よく短縮する等答える。



決められたルールを守りながら、1秒でもタイムを縮めるように一生懸命に頑張ってくれた。皆がオリンピックバリューを意識して取り組んでいた証だ。自分の班だけではなく、他の班を応援する気持ちや敬意を持つことは、自分自身の成長につながる。また、スポーツの楽しさや大切さに気付くことができる。座学の時間は、自分の経験を話し、皆にとってオリンピックバリューがこれからの生活にどう活かせるかを考える時間にしたいと話し、授業終了。

■オリンピック：中野 紘志 先生（ボート※）【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】

■期 日：2024年12月11日(水)

※現：ローイング

■ク ラ ス：2年4組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像とスライドを見ながら自己紹介。ボート競技は19歳で始めた。それまで水泳、サッカー、テニス、陸上競技を経験した。様々なスポーツを経験したことで、自分の得意不得意を知ることができた。人生をオセロに例え、結果が出なかったり失敗することがあっても、努力を辞めなければいつか報われる。諦めなければ夢は叶う。未来を否定する無理という言葉よりも、自分や他人を励ます前向きな言葉が言える人間になってほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



次の発問についてグループで考えよう。

- 発問①：「どうせ無理と周囲から言われたら？」⇒「誰も未来を当てることはできない」
- 発問②：「様々なスポーツに挑戦したが上手く行かなかった、なぜだろう？」⇒「どのスポーツも苦手だった」
- 発問③：「ローイング競技に出会ったが最初は結果が出なかった、なぜだろう？」⇒「練習方法が悪かった」
- 発問④：「自分には〇〇無理。〇〇に入る言葉は？」⇒「まだ」
- 発問⑤：「ヨーロッパの選手達が負けた時によく使う言葉はどんな言葉？」⇒「今日は私の日ではなかった」



上手いかない時や失敗をしてしまった時に励ましの言葉を掛けてくれる人があると思う。様々な言葉の中から、自分が信じる言葉を自分自身で選択して進んでほしい。自分を追い込み、傷つけるのも自分自身だ。そして自分を励ますことができるのも自分自身だ。周りの人や友達にも、否定する言葉ではなく、相手が前向きになれるような言葉を選び、伝えられる人になってほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：新谷 志保美 先生（スケート／スピードスケート）  
【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】

■期 日：2024年12月11日(水)

■ク ラ ス：2年5組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



バンクーバー2010年冬季大会のスピードスケート競技に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、運動の時間は全力で楽しむ、仲間と協力する、ルールを守ることを意識して取り組んでほしい。ストレッチ後、2人組になり両手を合わせて押し合う、1本のハチマキを引き合う、片足の足裏を合わせて押し合う等行う。その後、各自腰から下げたハチマキを取り合うしっぽ取り鬼を実施。1回目は個人戦、2回目はチーム戦でハチマキを多く取れた班の勝ちとする。

○主運動等



主運動はトライリレーを実施(全3回)。各班で3つの種目を行いタイムで着順を競う。1つ目の種目は1列に並び頭上から後ろの人にバスケットボールを渡して折り返し地点まで進む。2つ目の種目は1列になり股下から後ろの人にバスケットボールを送りスタート地点に戻る。3つ目の種目はドリブル、片足けんけん、スピードスケートの低い姿勢で走るかのいずれかを選び1人1往復する。途中作戦タイムを設け、タイムを縮める工夫を話し合う。



運動の時間を振り返り、全力で楽しむ、仲間と協力し、ルールを守りながら取り組めたことは素晴らしい。全てオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自分の経験をオリンピックバリューに当てはめて話す。皆は運動の時間に仲間と一緒に考え工夫したことや、お互いに声を掛け合い協力したことを振り返り、今後の学校生活の中にオリンピックバリューをどのように活かせるかを、一緒に考える時間にしようとし、授業終了。

■ **オリンピック**：新谷 志保美 先生（スケート／スピードスケート）  
【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日**：2024年12月11日(水)

■ **ク ラ ス**：2年5組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。実際に使用していた競技スーツとスケート靴を披露。スーツは薄く空気抵抗を減らす工夫がされている。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンは、オリンピックは競技力だけではなく人間性を高めていく。そして世界の平和を願いオリンピックを開催した。オリンピックシンボルの5つの輪は背景の白色を含めた6色で世界の国旗を描くことができると説明。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に頑張ったことや協力したこと、皆が考えた作戦等をオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「諦めずに走った」「気持ちや行動を切り替える」「本気で取り組む」「上手に進めるように工夫した」等  
フレンドシップ：「仲間への声掛け」「仲間と協力する」「ボールを渡す時に一声掛ける」「皆と楽しむことを意識した」等  
リスペクト：「仲間の意見を尊重した」「ルールを守った」「不満を言わなかった」「他の班が頑張ったことを褒めた」等



オリンピックバリューは皆の日常生活の中に沢山存在している。中学校2年生から父親に競技を指導してもらい、家族が支えてくれ、練習する環境を常に整えて貰えたことで競技を続けることができた。決してオリンピック出場は1人では成し遂げることはできなかった。皆も家族や周りで支えてくれる人に感謝の気持ちを直接伝えてほしい。感謝を伝えることで自分を応援してくれる人が増え夢に近づく。オリンピックバリューを意識することで皆の人生がより豊かになったら嬉しいと話し、授業終了。

■オリンピック：野村 智宏 先生（陸上競技 走高跳）【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■期 日：2024年12月10日(火)

■ク ラ ス：2年6組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



アトランタ1996大会に陸上競技の走高跳で出場したと自己紹介。自己ベストは2m27cmだ。オリンピックバリューについて説明し、運動の時間は皆で協力しながら取り組んでほしい。ストレッチ後、合図に合わせて片手ずつ肩を触り、リズム良く上下左右に腕を伸ばす運動を行う。その後、2人組で向き合い、片手ずつ合わせる、両手を合わせる、両手を叩く等の動作を繰り返す。リズムに合わせて頭と体を動かす。

○主運動等



主運動はボール取りゲームを実施(全3回)。体育館を2面に分け、3つの班毎にテニスボールを3個揃える速さを競う。中央に2個、各班の陣地に1個ずつ合計5個のテニスボールを置く。スタートの合図で1人ずつ中央もしくは相手の陣地にボールを取りに行き、何れかの班が3個揃った時点で終了。3回の合計数を競う。ボールは投げたり転がしてはいけない。各回対戦する班を組み換える。途中作戦タイムを設け、できるだけ速くボールを揃える工夫を話し合う。



運動の時間を振り返り、ボールを取りに行く人だけが考えるのではなく、チームの仲間が声を出して指示することで視野が広がり、チームワークを発揮できていた。決められたルールの中で工夫しながら、声を掛け合い一生懸命頑張って取り組んだことは、全てオリンピックバリューに当てはまる。最初は上手くいかなかった班も、最後まで諦めずに取り組んだ結果、順位を伸ばすことができた。結果を受け止め、その結果を次にどう活かすかを考えることが大切だと話し、授業終了。



■ **オリンピック**：野村 智宏 先生（陸上競技 走高跳）【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2024年12月10日(火)

■ **ク ラ ス**：2年6組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。中学校から本格的に走高跳種目を始め、悔しい思いをした大会もあったが、跳ぶことが好きで競技を続けていたからこそ、オリンピックに出場することができた。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンは世界の平和を願いオリンピックを開催した。また、日本のオリンピックの父と言われる加納治五郎も紹介。実際に履いていたスパイクを披露する。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：校外学習でどんなことを意識したか、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「より良いルートにするために事前に何度も調べた」「入念に計画を立てた」「全力で楽しんだ」等

フレンドシップ：「普段から仲間との声掛けを意識した」「お互いのペースに合わせた」「各自が役割を果たし協力した」等

リスペクト：「公共の場所のルールを守った」「率先して行動してくれた仲間へ感謝」「親切な人にお礼を伝えた」等



経験が人間の成長の糧となる。様々なことに挑戦し経験を積んでほしい。経験や知識を増やすことで物事の見方も変化し成長につながる。苦手だと感じることで失敗を恐れずに取り組んだ経験は必ず次に活きる。得意な部分は伸ばし、苦手なことは少しずつ無くして欲しい。オリンピックバリューを意識して生活することで皆の未来が明るくなる。そのためには努力し続け、常に感謝の気持ちを持って過ごすことが大事だと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



・2年4組



■集合写真

・2年5組



・2年6組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



・2年4組



・2年5組



・2年6組



■修了証贈呈

